|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **（１）避難訓練の実施等** | | | | 指導時期等 | 主な  指導  場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 | |
| ① | 避難訓練に真剣に取り組むことの重要性を知り，危険を予測して回避する力を身に付ける。 | 1) | なぜ避難訓練をするか，理解する。 | → | 教・行 |  |
| 2) | 避難訓練では，実際の災害を想定し，真剣に取り組まなければならない。 | → | 教・行 |
| 3) | 避難訓練は，一度に多くの人々が行動するので，ふざけたりすると危険である。 | → | 教・行 |
| 4) | 避難訓練では，先生の指示どおり的確に行動する。 | → | 教・行 |
| ③ | 非常用備品を確認することの必要性を知り，災害に備える。 | 1) | 自分の家で考えられる災害を想定し，その際必要となる備品を家族で取りそろえておく。 | → | 教・行 |
| 2) | 非常用備品は，定期的に状況を確認し，いざというときに使えるようにする。 | → | 教・行 |
| ④ | AED（自動体外式除細動器）の効果や取り扱いについて知り，使用できるようになる。 | 1) | AEDの普及と使用方法が救命講習の内容となったことで，２０倍の方々が医療機関到着前に心拍が再開している事例がある。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 全国では１日に約100人の人が心室細動で突然死していると推定されている。いつ，どこで自分の身の回りでAEDを必要とする場面に立ち会う人（バイスタンダー）になるかもしれない。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 日本では2004年７月にＡＥＤによる救命処置が一般人にも開放された。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | いつかのために，いざというときのために，救命講習会を受けてＡＥＤの使用方法をマスターしておく。 | ◎ | 教・行 |
| 5) | 自分の学校のＡＥＤの設置場所を確認する。 | ◇ | 教・行 |
| ⑤ | 学校が避難場所になったときに，支援のために積極的にかかわることができることを知る。 | 1) | 災害時は先ず，自分の命は自分で守る「自助」。これが一番大事。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 次に，自分の安全が確保された後には，近くの人で助け合う「共助」。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | そして，市町村や警察，消防，県，国といった行政機関や公共企業などによる応急対策活動により復興が図られる「公助」。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | 災害が発生したときに，学校が避難所として開放されることがある。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | 避難所においては，状況に応じて，支援活動に積極的にかかわることが求められる。 | ◇ | 教・行 |
| 6) | 学校が避難所になった時を想定して行われる訓練に参加することは，いざというときに役立つ。 | ◇ | 教・行 |
| ⑥ | 自分の住む地域の災害に関するハザードマップをしっかり認識する。 | 1) | 市町村から発表されるハザードマップを確認する。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 自分の住む地域がどのような災害が起こりやすいのかを把握する。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 通学路の周辺に土砂崩れの危険がないか把握する。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | 災害が発生したときの対応の仕方について，ハザードマップから想定する。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | ハザードマップは家族共通の危険回避のツールであるという認識を持つ。 | ◇ | 教・行 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例